

焼津市の通級指導教室(ことばの教室・まなびの教室)の担当者として、多くの子ども達を支援してこられた荒井久美子先生に、特別支援教育で大切にしたいことや、一人一人の特性に応じた支援のヒントについて、わかりやすい言葉で書いていただきました。



## 「吃音について知ってほしいこと」

吃音とは、話し始めのタイミングが合わないことです。吃音のある人は、100人に1人くらいいるといわれています。また、吃音のタイプは主に連発・伸発・難発の3つがあります。吃音はその症状だけでなく、どもるかもしれないと不安をもつことや、人や社会とのコミュニケーションを避けたり、自分を否定的に捉えたりして、社会生活上の問題を抱えることもあります。

- 連発・・・同じ音をくり返す 「あ、あ、あ、あ、ありがとう。」
- 伸発・・・最初の音を引き延ばす 「あ—————ありがとう。」
- 難発・・・話し始めに体や手足を動かし、なかなかことばが出てこない  
「・・・・・・・・・・・・・・・・ ありがとう。」

吃音があっても気にせず話をする子もいれば、話し方を変えたいと、悩んでいる子もいます。現在、吃音の原因や治し方はわかっていません。吃音について正しい知識をもち、吃音を気にせず話せる環境を整えることが、吃音に悩む子どもの悩みの軽減になります。

## 吃音〇×クイズ

① 吃音の話し方をまねしていると吃音になる。	
② 子どもがどもる最大の原因は育て方の問題ではない。	
③ すらすら話せるときがあれば、治ったといえる。	
④ 「ゆっくり話そう。」とアドバイスした方がよい。	
⑤ 家庭で吃音の話題はタブー。本人に意識させてしまう。	
⑥ 吃音のある子の半分以上は、からかわれた経験がある。	
⑦ 吃音を隠す工夫はしない方がよい。	
⑧ 治るかどうかは、本人の性格と努力しだいである。	

(菊池良和, 吃音のことがよくわかる本, 講談社, 2015, p.98 参照)

## 答え

① ×

吃音は子どもが急激にことばを獲得していくうえで起きる副産物のようなもの。話し方をまねて始まるわけではありません。

② ○

吃音が始まるかどうかを決める最大の原因はもって生まれたものです。育て方とは関係ありません。

③ ×

吃音があるからといって常にどもるわけではありません。すらすら話せるときもあるのが吃音です。

④ ×

「ゆっくり」「落ち着いて」などのアドバイスは、「あなたの話し方はダメ」といっているのと同じです。話し方よりも話の内容に耳を傾けてください。

⑤ ×

吃音の自覚は比較的早くから芽生えます。大人が意識させなくても、友だちからまねされたり指摘されたりするものです。

⑥ ○

6割程度の子が、からかい・いじめを受けています。大人がしっかり指導して、からかいの芽をつむことが必要です。

⑦ ○

吃音を隠そうとするあまり人との関わりを避けるようになることがあります。吃音の最大リスクです。

⑧ ×

「話す意欲」を奪わないことが吃音の悩みをやわらげるためにもっとも大切なことです。本人の性格や努力とは無関係です。

### 安心して話せる環境を整えましょう

